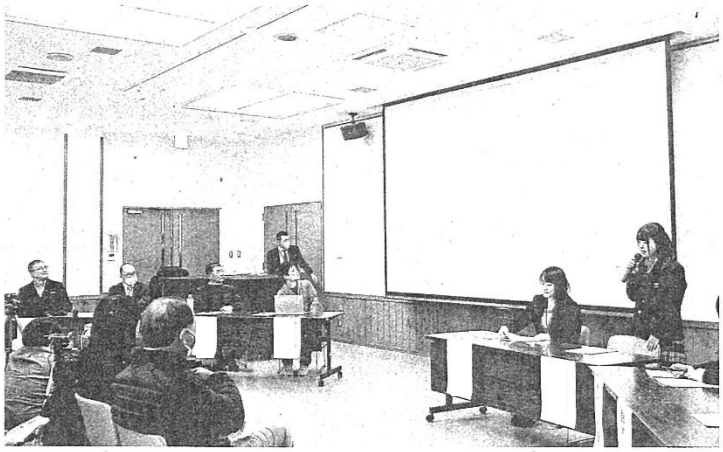
獣害対策 大人も生徒も

丹波篠山 フォーラムに市民ら100人



放置柿を活用した商品開発について説明する県立篠山東雲高校の生徒（右、丹波篠山市で）

獣害対策を通じて地域活性化を考える「第6回獣がいフォーラム」（実行委員会主催）が2日、丹波篠山市網掛の四季の森生涯学習センター東館で開かれ、市民ら約100人が参加した。

ヒグマの生態に詳しい酪農学園大学（北海道）の　教授は「市民によるヒグマ対策」と題して基調講演。札幌市では市民団体が放棄果樹を伐採し、人が住んでいるエリアから熊を遠ざける活動に取り組んでいることなどを紹介した。

続いて、　教授と県立篠山東雲高校の生徒や地元関係者らによるパネル討論が行われ、「『住民』『関係人口』『市民』多様な主体の協働を促すには」をテーマに意見を交わした。

山岳ガイド事務所職員の　さんは、獣害対策への新たなアプローチとして、昨秋企画した獣害柵の点検ツアーを紹介。京阪神から10人ほどのベテラン登山者らが参加したといい、「普段登る山を守ってくれている地元住民のため、何か貢献したいと思っている人は多い」と指摘した。

篠山東雲高校の生徒らは放置柿を活用したジャムなどの開発経緯を説明。指導した　教諭は「商品を通じて獣害対策の取り組みをさらに広くPRしていきたい」と語った。

2024年3月3日
読売新聞